

## 教育学部 学校教育教員養成課程 令和2年度「大学入門ゼミ」実施報告書

松下 幸司 (教育学部附属教職支援開発センター)

### (1) 実施の概要

令和2年度の大学入門ゼミは、例年通り7クラス編成(1クラスあたり学生 24名×7クラス)で実施した。全学共通コンテンツについては164名を2クラスに分けて実施する計画とした。教育学部学校教育教員養成課程においては、1～7組の授業教室が前期「大学入門ゼミ」のみならず、後期実施の「教職概論」(学部実地教育科目)までを通して“ホームルーム教室”となるよう、講義室調整を行った。併せて、担任教員の学生指導のクラス間連携を図るとともに、学生にも初年次教育の一体感・一貫性を感じさせるため、ホームルーム教室となる講義室を、中庭を取り囲む4・5号館2・3階にクラス番号順に並ぶよう集中配置して実施することとした(1組 421・2組 432・3組 423・4組 526・5組 525・6組 523・7組 522)。本学部学校教育教員養成課程における令和2年度「大学入門ゼミ」の年度当初の授業計画は、表1のとおりである。

表1 教育学部学校教育教員養成課程「大学入門ゼミ」年度当初の授業計画

回	実施月日(曜日)	授業内容の概要
1	<del>4月18日(月)</del> →本日(4/3 午後)	(全体)担任紹介・オリエンテーション・授業説明 (クラス別)入学後の大学生活
	4/20 までに(個別事前学習)	(1)教育に関する新書等を読む。→(2)A4用紙1枚(1,400字)程度のレポートにまとめる。
2	4月20日(月)	<b>[共通コンテンツ①] 情報整理の方法</b>
3	4月27日(月)	<b>[共通コンテンツ②] レポートの書き方</b>
4	5月11日(月)	<b>[共通コンテンツ③] 日本語技法</b>
5	5月18日(月)	<b>[共通コンテンツ④] プレゼンテーションの方法</b>
6	5月25日(月)	学生憲章と大学生としての自覚 学校参観事前指導 学校参観で学びたいことは? 最終課題について
7	6月01日(月)	小学校参観
8	6月08日(月)	小学校参観振り返り・幼稚園/中学校参観に向けて
9	6月15日(月)	学校教育入門・授業の基礎基本(授業のミカタ)
10	6月22日(月)	一日研修事前指導・『二十四の瞳』から考える「教育とは?」
11a	6月29日(月)	中学校参観 ※11bに参加する学生は休講
11b	7月06日(月)	幼稚園参観 ※11aに参加した学生は休講
12	7月13日(月)	学校園参観振り返り～夏季自由研究(個人追究)計画
13	7月18日(土) or 19日(日)	一日研修[小豆島]
14	7月20日(月)	夏季自由研究(個人追究)に向けた事前調査～本時成果発表
15	7月27日(月)	夏季自由研究計画発表会・最終課題提出・授業評価その他

年度当初、上記のような授業計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症への対応として、

オンライン中心の授業実施ならびに授業計画の大幅な見直し・修正の上で、授業を実施せざるを得ない状況となった。特に、本学部学校教育教員養成課程における「大学入門ゼミ」の特徴として、授業計画に組み込んでいた「二十四の瞳」との出会い学習も、「大学入門ゼミ」において大人数での研修旅行を行うことが困難となったことを受け、実施することができなかった。(付記:小豆島一日研修については、「大学入門ゼミ」に続く後期開講の「教職概論」において、授業時数に組み込まず、自由参加型として研修を実施した。)また、教育学部「大学入門ゼミ」の授業内容の1つである附属学校園参観についても、新型コロナウイルス感染症への対応として、実施することができなかった。

一方、共通コンテンツについては、例年、1Q 開講科目を中心に、5月の大型連休頃にレポートが課される傾向にあるため、共通コンテンツの中でも特に「レポートの書き方」については大型連休前に授業を実施し、1年次学生に資する授業計画として実施してきた。しかしながら本年度は、年度当初の対面授業実施が叶わず、また大型連休前までの期間が「オンライン授業の準備期間」となったため、本年度は共通コンテンツを表2のように連休明けに延期し実施することとした。

授業は、オンライン(同時配信形式)にて実施することとなった。オンライン授業においては、図1のように受講生の顔が見えない状態で授業を進めざるを得ないため、受講する学生の受講状況を確認しづらい傾向にある。そのため、学生がチャットウィンドウに講師の質問に対する回答を書き込むなど、学生からの反応を得ながら授業を進行することとした。オンラインでの実施であれば、一括して全員を対象に授業配信することも可能であるが、受講する学生の反応を見取りやすくするため、当初計画どおり学生全体を2分割して(1~4組・5~7組)授業を実施することとした。(付記:授業内容・担当教員のオンライン授業への習熟度などによって、一括して全員を対象に授業配信した授業回もある。)

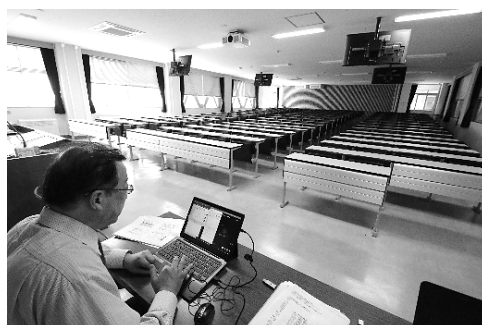


図1 「受講生の顔が見えない」オンライン授業

表2 教育学部学校教育教員養成課程「大学入門ゼミ」 共通コンテンツの実施日程

回	実施月日(曜日)	授業内容の概要
1	<del>4月13日(月)</del> →本日(4/3午後)	(全体)担任紹介・オリエンテーション・授業説明 (クラス別)入学後の大学生活
	第2回授業までに(個別学習)	(1)教育に関する新書等を読む。→(2)A4用紙1枚(1,400字)程度のレポートにまとめる。
2	5月11日(月)	[共通コンテンツ①] 情報整理の方法
3	5月18日(月)	[共通コンテンツ②] レポートの書き方
4	5月25日(月)	[共通コンテンツ③] 日本語技法
5	6月01日(月)	[共通コンテンツ④] プレゼンテーションの方法

また、第6回(6/8)以降、前期後半の授業においては、「学校園を『探究』しよう!~学校園を理解するために~」と銘打ち、受講生一人ひとりが、幼稚園・小学校・中学校に関する探究課題を設定し、

文献調査・インターネット上の情報リサーチなどをふまえ、報告書にまとめ、プレゼン発表を行うという一連の学習活動を行った。この探究活動は、既習の共通コンテンツ①～④で得た知識・スキルを活用して取り組む学修機会として位置づけ、共通コンテンツを通して得た知識・スキルを「自分のものとして使える知識・スキル」に高めることを目指して実施した。

なお、これら探究活動の初回授業(6/8)を、大学入門ゼミFDとして、オンライン授業公開を行い、他学部「大学入門ゼミ」担当の先生方に授業参観をいただき、授業に対する細やかな建設的コメントを数多くお寄せいただいた。この場を借りて心より御礼申し上げたい。

## (2) 学生アンケート(共通コンテンツアンケート)結果についての所見

平成26年度の学生アンケートに、レポートの書き方をもっと早く実施してもらいたいとの希望が多かったことから、平成27年度以降1か月ほど前倒しし、大学入門ゼミ前半において授業を実施している。そのレポートの書き方に関して、学生アンケートには「レポートを書くという面で、書き方がわからず困っていましたが、1から丁寧に教えていただいたので理解できました。」「何も分からないゼロからの状態でレポートの書き方を学ぶことが出来たのはとても良かった。レポートに加えて、タイピングの速度も格段に上がった。」「大学生の課題といえばレポートであるが、実際、高校までの教育でレポートの書き方というものを習ってこなかったのが、大学入門ゼミでレポートの書き方の講義を受けることができてよかった。」「レポートの書き方のスキル教育が特に良かったと思います。レポートとは何なのかということ自体が、入学当初よく分かっていなかったのが、初めての事として教えて頂けるのは生徒にとって良かった点だと思います。」「レポートの書き方は、大学4年間で最も必要である講義だと思い、とても参考になった。特に、例などを記したプリントを配布してくださったのがよかった。」など、学生の必要感に応じたタイミングと内容による授業を提供できたものととらえられる。加えて、「情報整理の方法は、高校までと大学でのノートの取り方が変わることがわかり、とても参考になったところが良かった。」「日本語技法では、メールやレポートを書く上で必要になることが学べて、社会に出た時も役立つと思うので良かった。」「日本語技能のスキルを学べた授業が良かった。大学の先生へのメールの送り方を知れたことが最も自分の為になった。今まで目上の方にメールを送る機会が無かったので、メールを送る上でのルールなどが全くわからなかった。しかし、この授業を受けて基本的なメールの送り方を知ることができ、授業などに関する質問を聞きやすくなった。」「多くの授業においてメールを通してのレポート提出が求められたが、入門ゼミで習った技法を活かして課題提出がスムーズに行えた。今後も振り返りながら活用していきたい。(情報整理・レポートの書き方・日本語技法)」など、高校生までとは異なる“大学生としての学び方”のスキルアップの基礎を、4回の共通コンテンツの授業を通して培うことができたとともに、自分でできる達成感を感じ、将来に繋がるスキルとしての価値づけを促すことができたと思われる。

加えて学生からは、「プレゼン発表において、相手に伝わるような報告ファイルの作成・発表が行えた。対面授業が始まれば大勢の人の前で発表する機会があると思われるため、しっかり復習を行いたい。(レポートの書き方・プレゼンテーションの方法)」「遠隔授業の中でも、クラスの人々のプレゼンを聞くことができて、学ぶことがたくさんありました。」など、後半に実施した、学校園に関する探究活動においても、共通コンテンツで学んだことを活かして取り組むことができたこと、併せて、遠隔授

業においても、プレゼンがうまく実施できたことを報告するコメントも寄せられた。共通コンテンツを授業内で取り扱うだけでなく、それらの授業を通して得た知識・スキルを活用する機会をいかに設定するか、また遠隔授業においても、対面授業に近い授業参加感・達成感を受講する学生に味わわせることを意識した授業方法の工夫についても、引き続き検討したい。

なお、ある学生からは、「緊急事態宣言の発令で、自宅学習期間だったため、パソコンの扱いに慣れていないままオンライン授業が始まってしまったとき、この授業でレポートの書き方や、メールの内容について学べたことは良かったと思います。」とのコメントが寄せられた。自宅学習を余儀なくされている一人ひとりの1年次学生に対し、大学生活・大学生としての学修活動に、いかにスムーズに移行させることができる場を提供することができるか、「大学入門ゼミ」に対する学生の期待と、大学生としての学びに対する「大学入門ゼミ」の責任が大きいことを再認識させられる、貴重なコメントだと考える。

### (3) 改善すべき点等

学生のコメントから、「今回は遠隔授業ということもあり、授業中に質問があまりできなかったこと。」「映像授業は仕方ないことだが不具合が多いのでやはり対面がよかった。」「今年は遠隔授業であったため質問がしにくかったり、学生それぞれのwi-fi環境やスキルに差があり、授業を受講する学生が平等な環境でなかった点。」など、遠隔授業として実施せざるを得なかったため、「不具合が多い」「学生の受信環境が整っていない」などのネット環境の制約に加え、「質問しづらい」など対面授業であれば柔軟に対応してもらえらるであろうことが叶わない状況の中で、進行する遠隔授業の受講を強いられていた学生の状況がうかがえる。また、学生からはより具体的に、「もっと実践的な授業がいいです。」「オンラインでの授業であった為、難しかったかもしれないが、メールや要約文を実際に書いたものを添削する機会があれば良かったと思う。」「オンラインでの授業であったため、先生方が話されている時間が多かった。可能であれば、受講生同士で意見の共有をできる時間があってほしい。」など、実際に取り組むことのできるミニ演習や、受講生相互に意見交流などができる機会が、オンラインの授業であっても積極的に取り入れられていることを、学生らが求めている姿が見て取れる。

一方、「レポートに関する授業の前にも何個も提出しなければならないレポート課題が出ておりとても戸惑ったため、できればもう少し早くレポートの書き方を教えていただきたいかった。」とのコメントを寄せた学生もいた。2020年度は5月の大型連休明け以降、オンライン授業(特に同時配信型の遠隔授業)が本格実施されたが、科目によっては、大型連休より前に、レポート課題が与えられていたようである。授業を実施するタイミングとしては、昨年度において如何ともしがたいところではあるが、どのような時期に・どのような方法によって、レポートの書き方に関する指導を行うのかについては、今後検討すべき課題であると考ええる。

加えて、レポートの書き方については、「どういうレポートを求めているかなどを詳しく教えていただけると良いかと思います」と、レポートの書き方の「正解」を示して欲しいとの学生の声もある。しかしながら、「正解」を示すことは、学生全員が一様なレポートを書き提出することに繋がるのが危惧される上、大学教育においては、各科目・各教員によって、求められるレポートの書き方も多様であることが想定され

る。大学1年次において、どのようにレポートの書き方に関する指導を行うことが、1つの「正解」を示すことなく、各科目・各教員から求められるレポートを書くための「学生一人ひとりの思考を促す」ことに繋がるのか、共通コンテンツで取り扱う内容と指導方法について、全学を通してさらなる検討が必要であると考える。

今後とも、大学生として必要な内容の精選、本学学生の事例を挙げるなど授業法の工夫、ならびに、全学共通コンテンツ相互の連続性を持たせるなどの授業実施上の工夫を行いつつ、一方では学生の直近の必要性だけでなく、学生自身が「学ぶことの意味」を感じ考えられる授業として「大学入門ゼミ」を実施していきたいと考えている。

## 【法学部】大学入門ゼミ実施報告書 様式 (1頁におさめなくても結構です)

### 1. 実施の概要

\*開講数、担当者数、クラス規模、共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて記載してください。

開講数は9クラス(夜間主1クラスを含む)、担当者数は8名、クラス規模は基本的に20名程度である。大学入門ゼミにおいては、基本的に共通コンテンツを教授することとして、その具体的な教え方については、『大学入門ゼミハンドブック』を用いるなど各教員の指導方法に委ねられている。

### 2. 学生アンケート(共通コンテンツについてのアンケート)結果についての所見

\*7月に実施する学生向けアンケートを踏まえて、所見をお書きください。アンケート結果は、修学支援グループからお送りします。

高校で習う機会が少なかった法律用語とその使い方、日本語技法、プレゼンテーションの方法(パワーポイントの使用などによる)、レポートの書き方、メールの書き方や送信時の注意事項など、大学で必須のスキルを体系的に学べたことについて満足する意見が多かった。また、レポートの個別添削が具体的に学生個人のレポートの課題や改善点などを理解するのに有用であったとのコメントが少なからず見られた。プレゼンテーションの学習については、具体的に聞き手にとって理解しやすいスピードや間での話し方を学べたことがよかったとか、プレゼンテーション後の受け答えのマナーや質問をするためのクリティカル・シンキングをする力が身についた、あるいは議論の場を設けてもらうことにより、自分の考えを言葉にする力が身につき、他人の意見も聞いたうえで、柔軟に物事を考える力を身に付けることにより学びが深められたとの指摘があった。このように、全体として学生の受け止めは肯定的であるように感じられた。

### 3. 教員アンケート結果(または反省会での意見交換)についての所見

\*教員アンケート結果(または反省会での意見交換)について所見をお書きください。

共通コンテンツを1年次に指導しておくことはその後の大学での学びにとって有意義であるとの複数の意見があった。その一方で、2年次や3年次にはその基礎的技法をすっかり忘れている学生も見受けられるとの意見もあるので、低学年時教育と高学年時教育の連携をより積極的に図っていくことが今後の重要な課題であると思われる。また、コロナ禍の下で対面授業ができなくなったことに伴い、とくにプレゼンテーションの方法などを学生が学ぶ機会を逸したことを申し訳なく思っているとか、やはりオンライン授業になったため、より主体的に授業に取り組めるよう毎回簡単な課題を与えたことが学生の負担増につながったかもしれないとのコメントなどがあった。

#### 4. 改善すべき点等

以上を踏まえて、「大学入門ゼミ」で改善すべき点があればお書きください。『大学入門ゼミハンドブック』についての意見でも結構です。

学生アンケートにおいては、プレゼンテーションなどを習う機会が少なかったとの意見も見られた。これはコロナ禍のため大学入門ゼミをオンラインで実施したことが理由であったかもしれない。他方で、学生アンケートの中には、オンライン上で班を分けてプレゼンテーションをしたのが良い学びの経験であったとのコメントも見受けられたので、工夫次第で、共通コンテンツを含む初年度教育をより効果的に実施できるよう改善に努める必要があると思われる。また、学生アンケートでは、教員との指導やり取りのみならず、学生同士のグループワークやグループトークの機会を求める意見もあったので、こうしたニーズもできる限り取り入れるよう配慮すべきであろう。この他、学生から、教員のレポート添削の文字が読みづらい点があるとの指摘があったり、レポートの添削をより具体的にしてもらえると良かったといった意見があったので、この点も改善されるべき点として挙げておきたい。

## 1. 実施の概要

開講数	14
担当者数	14
クラス規模	1 クラス 18 名
共通コンテンツの教え方	各教員がそれぞれのゼミで対応、
担当教員間でのやり取りの仕方	メールでの情報共有

## 2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

「レポートの書き方」で教える内容は高校の段階で習得するような、常識な内容であると思っていたが、高く評価する学生が多いことに驚いた。高校では、レポートや小論文の書き方について、授業しなくなっているのであろうか。

遠隔講義でもブレイクアウトルームを活用することで、少人数の話し合いが効果的にできることがわかった。

新入生同士の交流の機会がないことを危惧していたが、ZOOM を使うことで（ブレイクアウトルーム）交流の機会を設定したことが、効果的であることがわかった。

「レポートの書き方をもう少し早めに扱ってほしかった」との意見があったが、初回でレポート課題を出して、それに対応するために講義形式で書き方を教える順番であれば良かった。もっとも、特にないと回答している学生が多かったことから、突然のオンラインにしては、よかったと言えよう。

## 3. 教員アンケート結果についての所見

やはりオンラインで新入生のゼミをやるのは困難である。大学入門ゼミは語学クラスと合わせて、新入生の大学生活の基礎となる授業であるから、来年以降はできるだけ対面でできるようにした方がよいのではないか。

コロナ禍では語学クラスなどをベースとした学生の割り振りを大学入門ゼミに対して行い、高校などのように受ける授業の集団をできるだけ統一させたうえで、対面型を行うという選択肢もあるのではないか。

共通コンテンツの内容については、基礎的な内容と不満を漏らす学生もいる一方で、役だったと高く評価する学生もいる。学生の基礎学力にかなり幅があるので、どのレベルにすべきか、共通コンテンツを作成された先生方は相当苦勞されたことだと思う。これ以上の要望は心苦しいが、ハンドブックに付録として、より高度なコンテンツ（発展編？）を用意していただけるとありがたい。

## 4. 改善すべき点等



難しいが、オンラインで行うのであれば、学生側の通信環境の整備が必要である。有線回線で講義を行っているのに、学生側が無線のため通信環境が悪化して途中退出など様々なトラブルが起こった。

(文責：安井敏晃)

## 1. 実施の概要

### (1) 実施の概要

学生に対する希望調査により医学科学生（109名）を4ゼミ教員計7名で担当、看護学科（61名）と臨床心理学科（20名）の合同で両学科学生を3ゼミ教員計8名で担当した（医学部受講全学生数190名、前期全15コマ）。

教員アンケート回答は5通、学生用アンケートは64名の回答であった。

### (2) 共通教育スタンダードと各ゼミのテーマの関連・対応

香川大学共通教育スタンダード

- ① 21世紀型社会の諸問題に対する探究能力
- ② 課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）
- ③ 広範な人文・社会・自然に関する知識
- ④ 地域に関する関心と理解力
- ⑤ 市民としての責任感と倫理観

ゼミごとに下記のテーマで授業を行った。

#### 「健康づくりバイキング (Health Promotion)」(宮武・鈴木ゼミ)

「健康づくり」の基礎的な内容、方法の理解の上に、実際に自分自身が生活の中で実践したり、まわりの身近な人に実践を促すように説明、支援できるようになる。さらにグループで課題について適切に考察しプレゼンテーションを行うことにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

#### 「感染症と感染制御 (Infectious diseases and infection control)」(坂東・岡田・桑原ゼミ)

感染症という課題を通して自ら学ぶことを理解するとともに、そのために必要な各種の技法を習得できるようになることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。さらにグループワークを通してお互いの意見を交換しながら、作業が進められるようになることにより「① 21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応。

#### 「医用画像分野におけるAIの利用 (Artificial Intelligence in Medical Imaging)」(久富ゼミ)

医用画像と人工知能およびこれらの適用についての基礎的な内容を自ら調べ、人工知能適用例や原理についての理解を通して課題解決能力を身に着ける。さらに自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができるようになることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

### 「生物多様性と実験医学 (Biodiversity and Experimental Medicine)」(宮下ゼミ)

広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に提示された課題にとりくむことにより、「① 21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応。課題を考えることを通じて、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

### 「患者との対話から学ぶこと (Learning from the dialogue with patients)」

#### (峠・藤井・石上・辻ゼミ)

文献検索やプレゼンテーション技術、レポート作成方法を身に着けることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」「③ 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。さらに、将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療や保険制度の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につけること、インターネットの常識と危険性をビデオ学習することにより、「① 21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。

### 「双方向学習のスキルアップ (Trying to mutually improve the learning skills)」(清水・渡邊ゼミ)

倫理的態度・大学履修上のマナーを習得することにより、「⑤ 市民としての責任感と倫理観」に対応。基本的学習スキルを取得することにより、「① 21世紀型社会の諸問題に対する探究能力」に対応。さらに、より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションをプレゼンテーションによる体験により、「② 課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応。

### 「医療における心理学 (Psychology in the medical)」(川人・野口ゼミ)

レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルを身に付けることにより、「① 21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨くことにより「② 課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応。

## (3) 講義形態

### 「健康づくりバイキング (Health Promotion)」(宮武・鈴木ゼミ)

WebClass と講義収録システムの併用。

### 「感染症と感染制御 (Infectious diseases and infection control)」(坂東・岡田・桑原ゼミ)

WebClass と 講義収録システム・遠隔会議システム (Kadype) を併用。

### 「医用画像分野における AI の利用 (Artificial Intelligence in Medical Imaging)」(久富ゼミ)

WebClass と 講義収録システムを使用。

### 「生物多様性と実験医学 (Biodiversity and Experimental Medicine)」(宮下ゼミ)

DreamCampus で通知。WebClass と講義収録システムを使用。

「患者との対話から学ぶこと (Learning from the dialogue with patients)」

(峠・藤井・石上・辻ゼミ)

DreamCampus で通知。WebClass で講義連絡。

学生は Moodle の指定ビデオの視聴等で予習。WebClass で課題レポートの提出。

「双方向学習のスキルアップ (Trying to mutually improve the learning skills)」(清水・渡邊ゼミ)

ガイダンスを Webclass で実施。WebClass と 遠隔会議システムを使用 (zoom)。

グループワーク (ブレイクアウトセッション) の実施。

「医療における心理学 (Psychology in the medical)」(川人・野口ゼミ)

ppt に声を吹き込んだ動画を Moodle 上へアップ。

学生は Moodle より授業動画の閲覧、授業資料のダウンロード、レポート課題の提出。

#### (4) 全学共通コンテンツの部分の評価方法について

それぞれのゼミでシラバスに従い、教員の判断により成績評価を行った。

## 2. 学生アンケート (共通コンテンツアンケート) 結果についての所見

### (1) 評価の高かった点

大学入門ゼミについては、スキルの取得、グループワークの意義について医学部学生の評価は基本的に高い。毎年学生アンケート結果で共通したコメントとして、「メールの書き方」「レポートの書き方および参考文献の引用の仕方」「プレゼンテーションの方法」に関して、必要性が高いとの意見が多かった。

また、医学部ゼミの特長として、

- ・ 色々な感染症について学び、感染症についての知識を蓄えることができたこと。
- ・ 情報整理の観点から英語論文・専門的な英文に対応する力がついたこと
- ・ AI についての基礎的な理解・教養を得ることができたこと。
- ・ 心理学と医療を結び付けた大まかな内容を把握できたこと。

が等があげられている。

### (2) 改善すべき点

- ・ レポートの書き方について指導充実の要望がでていた。
- ・ オンライン授業でプレゼンテーションをする機会が持てなかった。
- ・ 日本語技法および情報整理の技法に関して、直接的な効果を感じていない学生のコメントが見られた。

### 3. 教員アンケート結果（担当教員からのコメント）

#### （1）一般的所見

担当教員から、以下の感想が出ていた。

- ・レポートの書き方や発表の仕方は特にニーズの高いコンテンツと思う。
- ・学生の習得度確認がリモート下では困難であった。
- ・オンラインのみであったので、実際のプレゼンテーション演習が行えなかったのは残念。

#### （2）「全学共通コンテンツ」を教える際の工夫

- ・PCの苦手な学生を想定し、スマートフォンでも対応できるようコンテンツ作りを行い、スマートフォンでのOfficeのインストール方法・使用方法を動画で紹介した。
- ・学生が「何も知らない」ことを前提として、わかりやすくかつ体験的に学習できるような内容とした。
- ・推敲、要約などの技法演習にはDVD映像を活用し、推敲については、イーゼルパッドにまとめ、プレゼンテーションを実施させた。プレゼンテーションは、グループ毎にルーブリック評価を行わせ、各グループの評価をダイアグラムにし、スライドで示して、学生自身がセルフモニタリングを発表。
- ・ZOOM下でグループワークやグループ発表を行った。対面では、壁面を使ってソーシャルディスタンスをとって発表を行った。

#### （3）大学入門ゼミハンドブックに関する所見

担当教員からは、ハンドブックの内容自体については、特にコメントは出なかった。

#### （4）大学入門ゼミの教育効果

- ・レポートの基本的な書き方、発表・質問方法など、基礎的な面が大学入門ゼミで身につけていると感じる。
- ・大学生活に必要なスキルを全員が共通して学べる機会があるのは良い。
- ・本学のアイデンティティー教育として、さらに教員によるアカデミックスキルの教育水準を均質化には、非常に重要である。
- ・教員全体の意識醸成が今になってもできていないように思う。新任教員は数年後には必ず体験するというような基本的なスキルを共有することが必要。

#### （5）大学入門ゼミ全体に関して、改善すべき点

- ・卒業研究などでアカデミックスキルがでこぼこになっている状況が散見されているため、教員の体験が重要。
- ・入門ゼミの基本的スキルは、大学全体の教員に必要であり、またそれを共通理解しているというベース作りはなかったまま進んでいるので、どこかでその確認は必要。
- ・オンライン講義主体なので、共通コンテンツは大学全体で作成したものを視聴する形でもよい。

## 大学入門ゼミ実施報告書（創造工学部）

### 1. 実施の概要

- ・コースごとにクラスを開講しており、全7クラス。担当者18名(1クラス2または3名)。担当教員間のやり取りは基本 e-mail で行った。
- ・前半は、学部共通でのコンテンツ(共通コンテンツ, 高松南警察署による防犯講義, 図書館利用ガイダンス, 保健管理センターによる講義)を岡崎が中心となって作成し各コース担当者に送付, コースごとに微修正戴いた後に moodle にアップロードし, 学生はこれを受講する。後半は, 各コース別に, 調査・プレゼンテーション, PBL などを実施。
- ・出席, レポートの取りまとめ, 採点は各コースで実施。

### 2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

- ・良かった点については, 所見は特になし。
- ・改善すべき点について, アカデミックスキル関連の PPT はもう少し高度にすべき, など。ただ, 大学でのレポートの書き方がわからないという声が多く, もう少し早くすべきとのこと。
- ・その他について, 遠隔授業がメインであったが, zoom のブレイクアウトルーム機能で, 強制的ではあるが少人数で(特に 1 対 1 で)のグループワークが出来て良かったという声が多い。この一方で, 対面ではないので意思伝達がうまく行かなかったり, 初対面でうまくコミュニケーション出来なかつたりという声もあった。

### 3. 教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

- ・全学共通コンテンツに関しては, 遠隔授業であっても問題なかった, むしろ良かったという声。
- ・工夫については, ・複数の web サービスを使用した, ・グループワークを多用した, ・グループワークの方法を学生との協議で決定した, ・レポートの書き方については早期に実施した, 等が挙げられた。
- ・大学入門ゼミハンドブックについては, 問題なしとの回答。ただ, 学部から教員への配布がなされていなかったことが発覚したので, 次年度気をつけたい。
- ・教育効果については, ・大学講義の入り口としては非常に良い, ・創造工学部では CA が担当するため講義履修指導にも役立つことができる, ・レポートの書き方については, 上回生向けに大学入門ゼミ以外でも指導する必要があることが分かった, など。

### 4. 改善すべき点等

- ・グループディスカッションでは, 遠隔の場合, ファイルのやり取りやチャットをしながら課題ができるので, 対面にはない利点を確認できた。
- ・アカデミックスキルについて, オンライン授業にも対応できるようカスタマイズが必要ではないか。

以上

【農学部】大学入門ゼミ実施報告書 様式 (1頁におさめなくても結構です)

1. 実施の概要

\*開講数、担当者数、クラス規模、共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて記載してください。

- ・開講数は6クラス、各25名の学生に対して1名の教員で対応した。
- ・共通コンテンツの指導は、各々の教員の専門性を織り交ぜて概ね6月下旬までに各教員がお互い進捗状況を確認し合い、世話人が学生の理解度を点検しながら調整を行った。
- ・共通コンテンツの指導進捗についてはPadlet上で進捗状況を公開し共有した。特に情報整理やレポート作成の項目では、図書館の利用促進を推奨しており、今年度はYouTube動画を作成し共有した。

「Padletで公開し共有した資料」

<https://padlet.com/yoshikimatsumoto/f8f972cdhaf0epb3>

「農学部図書館分館利用に資する動画」

<https://youtu.be/vubXpTYs6H8>

- ・担当教員間の連絡や連携は、概ね毎月1回実施した。主に、Zoomを用いて綿密に調整を行えたことで、プレゼンテーション技能の向上に資する演習を1回以上対面形式で実施することが出来た。農学部では、アドバイザー委員と大学入門ゼミ担当者が異なる為、他学部以上に連携が必要だった。コロナ禍の影響を受け、対面講義と遠隔講義が混在してしまったが、学生の就学状況を第三者的にお互いが点検できた利点もあった。
- ・上述したアドバイザー委員と大学入門ゼミ担当者の不一致問題は、来年度以降の農学部大学入門ゼミの改革につながる議論に発展した。来年は、不一致は解消され、10クラス10名のアドバイザー委員による対応に変更されることになった。

2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

\*7月に実施する学生向けアンケートを踏まえて、所見をお書きください。アンケート結果は、修学支援グループからお送りします。

- ・全体の意見を拝見する限り、大学入門ゼミの共通コンテンツ部分の指導はコロナ禍以前と変わらず満足しているというコメントが多かった。
- ・Zoomを用いた遠隔環境下でのグループワークでは、積極的に取り組む学生が多く、十分とは言えないまでも一定の成果があったと思われる。
- ・あるクラスでは、担当教員の共同研究者とzoomで繋ぎ、コロナ禍の他国の対応について英語で質疑応答を行い、積極的に英語でコミュニケーションする学生が半数以上いたと報告があった。対面講義よりも積極的な一面もあった。

### 3. 教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

\*教員アンケート結果（または反省会での意見交換）について所見をお書きください。

- ・農学部の大学入門ゼミの位置づけは、演習であるため、遠隔講義形式やハイフレックス型講義には適していない。
- ・プレゼンテーションの技法には、実験的な要素が含まれている為、次年度以降は遠隔講義やハイフレックス型講義に対応できるように準備が必要である。
- ・農学部担当の教員が意見を集約し、対面講義を少なくとも 1 回実施する事の意義について議論できた点は良かった。
- ・アドバイザー委員と大学入門ゼミ担当者の不一致は円滑な講義に多大は弊害を生んでいた。
- ・これらの改善に向けて教授会での審議を経て、10 クラス教員 10 名で対応する解決策が採択された。
- ・今年度は複数回担当した事が有る教員が教鞭をとっていた為、余裕をもって対応できた。

### 4. 改善すべき点等

以上を踏まえて、「大学入門ゼミ」で改善すべき点があればお書きください。『大学入門ゼミハンドブック』についての意見でも結構です。

- ・次年度は、大学入門ゼミを初めて担当する教員が大半を占める為、授業の一部を e-learning のコンテンツ化できないか？と意見がでております。特に、ハイフレックス型講義や遠隔講義の特徴や問題点についても情報共有するために、冊子体内に掲載することを望む声もありました。